

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890100205		
法人名	株式会社ニッコー・ケイサービス		
事業所名	グループホーム紫陽花		
所在地	〒658-0063 神戸市東灘区住吉山手2丁目11-26		
自己評価作成日	令和元年11月26日	評価結果市町村受理日	令和2年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2890100205-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター		
所在地	姫路市安田三丁目1番地 姫路市総合福祉会館内		
訪問調査日	令和元年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ここ山田地区は、昭和7年頃に旧財閥の別邸が建てられ、現在も蘇州苑としてその名を残しており、神戸市民にとってゆかりのある地域となっています。そんな閑静な住宅地に立地する、グループホーム紫陽花は地下1階から地上6階建てのビルの3階・4階部分にて高齢者の方々と一緒に、皆様の日々の生活に寄り添いながら、サービス提供に取り組んでおります。利用者様の自己決定を尊重できるよう、介護技術向上だけでなく普段の接遇に意識を向けております。そして個別対応を基本とし利用者様の状況・状態に合わせたケアを提供しています。新人スタッフ・ベテランスタッフが日々相互に刺激しあいながら働きやすい職場風土を構築できる雰囲気がありまた同建物内に併設するエイワ訪問介護ステーションとの医療連携体制をとっておりターミナルケア期にさしかかった利用者様のケアだけでなく褥瘡処置・スキンケア等を看護の視点からアドバイス頂ける環境にあります。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の唯一のグループホームである事業所は、みかげ倶楽部として看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーションと同じ建物の3・4階部分にある。緑に囲まれた静かな環境で、一人ひとりに寄り添う支援に取り組んでいる。今年は職員が聞き取った、利用者のやりたいことを実現させるプロジェクトを始動させることで新たな展開が期待できる。また今年度から看護師が常勤となり、より医療面での安心感がある。職員間のコミュニケーションも良好で、みんなでアイデアを出し「やってみよう」「どうすればできるか」と考えて実践している。第三者評価への意識も高く、今回は全員で自己評価に取り組んだ。家族とのかかわりなどの課題にも、目標達成に向けて全員で検討し尽力してもらいたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスを基本にした理念として、「ご利用者様一人ひとりに寄り添い、お気持ちを受容し、自己決定を大切にします」を制定し職員一同となって日々の業務を遂行している。繁忙な日々の業務を遂行するにあたってこの理念を自らの業務の基本として確認更にはお互い啓蒙していくことに苦心しているところであるが、日々その成果は、実りつつあるとの自負を持っている。	3年前に職員全員で考えた「ご利用者様一人ひとりに寄り添い、お気持ちを受容し、自己決定を大切にします」という理念に基づいて、利用者本位のケアを実践している。各フロアに掲示され、共有を図り、月1回のフロアミーティングで確認する取り組みが行なわれている。また、新任研修の課程にも盛り込んでいる。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	山田地区地域の自治会員となっており、地元の保育園との交流や明楽会山田地区地域の方の集いへの参加、住吉会でのお祭りなどにも参加させていただき地域の方にみかけ倶楽部の取り組みをどのようにおこなっているか、を周知している。まただんじり祭りなどでは若い方から高齢者の方々と情報の交換やかかわりを築いている。	自治会には事業所として登録し、地域との連携づくりに取り組まれている。5月には有名な住吉のだんじりが事業所前を練り歩き、利用者にお菓子が振舞われている。そうめん流しの竹は近くの商店街からいただき、本格的なそうめん流しをして盛り上がった。今後、地域とのつながりが深い利用者の入居を機に、より地域との連携を強化していきたいと考えていることがうかがえた。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みかけ倶楽部は認知症施策推進総合戦略に基づき、認知症カフェの登録をおこなっており、地域の方々が気軽に立ち寄りお茶をしながら気軽に話が出来、介護についての相談や情報交換を行っている。また、フロアのご利用者様にも参加していただいている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催しており、外部から民生委員・地域包括支援センター職員老人会等から貴重なご意見をいただき議論に基づき利用者様へのサービス向上策を実施している。	運営推進会議には山田地区の老人会長と民生委員、利用者や家族、住吉北部あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)職員が出席し、インフルエンザの流行に関する情報や虐待に関する情報提供を受けている。家族の出席については、今後増やしていけるよう工夫していく予定である。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターで開催されている、地域ケア会議にはみかけ倶楽部として3事業の中で出席可能な管理者に参加頂き、介護保険に関する手続き・生活保護適用者についてや、障害サービス利用の方の相談、年間の研修内容のアドバイス等日頃から連携をとり神戸市介護保険課、福祉事業所、介護指導課等と協力関係を深めている。	住吉北部あんしんすこやかセンター(地域包括支援センター)との連携で、地域で虐待が疑われる通報があり、住吉北部あんしんすこやかセンターからの依頼を受け、在宅での暮らしが困難な高齢者を事業所で受け入れた事例がうかがえた。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を検討する場合においてすべての職員が「身体拘束」についての理解を深め身体拘束3原則・ご利用者様の安全確保を念頭に置き身体拘束を避ける方法でケアに努めている。やむを得ず実施する状態の場合においてはご家族様に十分に説明し同意を得て書面に捺印を頂いているまた、記録に残すよう配慮している。介護職員には学習会・研修において身体拘束の理解をもらっている。構造上の問題で玄関の施錠を行っているが、暗証番号での開錠が可能である。	身体拘束に対する委員会は2か月に1回、運営推進会議時に行っている。職員にはフロアミーティングで報告し、運営推進会議録(委員会の記録を含む)はいつでも職員が閲覧できるように整備している。年2回、身体拘束に関する研修を行っており、1階玄関と各フロアの自動ドアは建物の構造上、リスクが高いため解錠は難しいが、3・4階は行き来することができないかを現在検討している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員が法の定める「虐待」の意味・範囲を正しく理解するため年2回の虐待研修を実施し虐待の種類・範囲を認識してもらえる環境を作っている。ご利用者様の置かれている立場を十二分に理解し、受け止め虐待のない介護職務を果たすよう努めている。また家族様間における関係についても折に触れ感知し適時に関係機関とも協力するように努めている。	虐待防止の研修は、身体拘束に関する研修とともに年2回実施している。昨年の第三者評価受審後、ストレスチェックシートの作成を目標達成計画に挙げて取り組んだ。現在は原案の内容を見直し、ベース作りが進められている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市の成年後見支援センターの資料等を活用し「日常生活自立支援事業」「成年後見制度」等の活用について、必要と思われる場合、家族、ご利用者様にその制度について、周知、理解を深めていくよう努めている。これまでに1名のご利用者様が成年後見制度を利用されている。	現在、成年後見制度の利用予定の方が1名おり、手続きを進めている。また制度についての研修を行っている。パンフレットを玄関に置き、利用希望者や対象者があれば制度利用に繋ぐ対応ができる体制が設けられている。		
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書・重要事項説明書を用い事業所とご利用者様、ご家族様との契約及び契約改定、解除の際には、丁寧に説明する取り組みを心掛けご利用者様・ご家族様に誤解・不安が生じないように配慮している。	契約には、管理者と介護支援専門員が対応している。利用料金や身体拘束、医療連携については特に丁寧に説明している。また、重度化した場合及び終末期の対応についても、指針に基づき説明し同意を得ている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様・ご家族様からのご意見やご要望についてお聞きするためにご意見箱・ホームページでの意見連絡を介護に活用するよう努力している。運営推進会議においてもご家族様の要望、意見をサービス向上に反映して行くよう考えている。	運営推進会議に家族代表に出席してもらっている。現在、利用者のやりたい事を把握して、かなえる計画が進行中である。クリスマスパーティーなど、家族が参加できるイベントはあるが、参加は少なく、家族の意見聴取まではできていない。	グループホームは利用者、地域だけでなく、家族が積極的にかかわって暮らしが成り立つ。家族の思いの把握のため、満足度調査などアンケートの実施も方法としてある。家族との連携強化を期待したい。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場にある「情報」を職員が見逃さず察知する事が必要である、日々の申し送り、フロー会議を開催しその情報が的確に速やかに上司・管理者に伝わる事が重要で、まず情報を察知する「聞き上手」「察知力」の涵養と活きた組織、経営力がひつようであることを常々思い努めている。	月1回のフロアミーティング時に意見・提案を聞いている。個人面接は年2回行っている。今回の第三者評価受審では、職員全員で自己評価を行ない、意見を聞いている。提案には、どうすればできるかを考え迅速に対応している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心の醸成が職員教育には欠かせない。日頃の各職員の業務態様とそれに対する的確な評価、処遇対応が重要であると認識している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の力量を把握し、職員育成の為、出来る限りの研修等学びの機会を設け、OJTをベースに育成を図っている。			

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他グループホームの長等に参加頂きその際に情報交換を行っている。またグループホームのネットワークに参加し、他のグループホーム主催の勉強会にも参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様入所段階では、ご本人様の不安・声・気持ち・等を十二分に傾聴し、理解を深め、家族との信頼関係を構築出来る様努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談・サービス導入段階でご家族様の思い・不安・お困りになっている事等に理解を深め、ご家族様と信頼関係構築できるようつとめています。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所は該当しない。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の意向・や求めておられるもの、必要とされる介護を職員が一方的に与えるといった方向性だけでなく、伴に問題解決を信頼関係の構築により解決していくといった両方向性のもので認識するよう努めている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご利用者様の介護について、ご家族様への支援であると同時に、基本的にご家族様とコラボレーション関係を築くことによる介護の質向上を図っていくよう努めている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様のこれまでの市域社会との関りを、出来るだけ継続していただけるように協力を惜しまないよう努めている。住み慣れた場所への外出なども行っている。	家族や親戚の方の訪問がある。知人や自宅近所の方と外出されることもある。馴染みの喫茶店に同行したり、家族の支援で墓参りに行ったりしている。正月には自宅に帰られる方もある。以前住んでいた地域の話の積極的にするなど、馴染みの関係を大切に支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様の性格・気性・好み等を把握し、しゅうだんの中での利用者間の人間関係の機微を察知し、各ご利用者様が孤立することなく和やかな雰囲気を作れるよう細心の注意をもち行動している。			
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス契約が終了するケースには、ご利用者様・ご家族様のアフターケアについても温かく対応するよう努めている。また入所施設先の相談員、ケアマネと連携し入所先での生活がスムーズにスタート出来るよう配慮している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人が、その人らしく暮らしていけるように、常時各利用者の思いや意向について把握していくように努めている。そして希望や意向を聞き取る事で、本人の望まれる生活が出来るように配慮している。	独自のフェイスシートでアセスメントの記録をしている。入居後は生活歴聞き取り表を利用している。会話などから聞き取った、好きなことや得意なことなどを細やかに記録している。4月から夢プランとして、利用者のやりたいことをかなえる計画を立ち上げ、利用者の希望を把握し実現に向けた取り組みを進めている。	始動した「やりたい事をかなえるぞプラン(仮称:夢プラン)」を介護計画にも盛り込んで、実践できるよう期待したい。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の個々の履歴、生活歴、サービスに至った経緯などについて、折に触れ調べ、利用者それぞれの暮らしをサポートする事に努めている。家族からもその方のこれまでの生活背景や、人柄などを聞き取るように努めている。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の1日の過ごし方、心身譲許、趣向など現在の状況を注意深く観察し、日々の対応に生かしている。各専門職からアドバイスをいただき、その方への個別ケアを実施している。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生きた介護計画をキープするように努めている。日頃からアセスメントモニタリングを実践し、利用者がよりよく暮らせるように、介護計画を臨機応変に見直すように努めている。また多種職との連携の元、プランを作成するように努めている。	基本6か月に1回、介護計画の見直しを行っている。1か月に1回モニタリング記録表を用いて記録し、6か月に1回評価表で評価している。11月より各職員がタブレットを利用するようになった。記録や気づきをいつでも入力できるようになり、職員同士の情報の共有が容易である。フロアミーティング時に検討し、新たな介護計画につなげている。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録内容は、まさに「現場の生々しい記録」が本筋であり、それが爾後のより良い介護のより良い介護のスタートであることを承知している。日々の記録や、申し送りを含めて介護計画の実践に努めている。			

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所は、すでに多機能化を実現しており、利用者、家族の様々なニーズに適切に応えられるよう柔軟な姿勢を維持している。介護保険上のサービス以外でも柔軟なサービスを提供できるように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の有用な地域資源を最大限に活用すべく地域包括支援センターとの協働を図りながら利用者の便宜を図るように努めています。常に地域の社会資源を活用できるように心掛けている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の馴染みのかかりつけ医による往診と同時に、事業所独自の協力医療機関の2本立てで対応している。また夜間時の急変など医療連携している訪問看護ステーションとのオンコール体制を構築している。	利用者・家族の希望によるかかりつけ医に通院している。現在1名、家族の支援で、入居前からのかかりつけ医に受診している。主治医とは家族を通じて連絡を取ったり、薬のことは直接電話をして確認している。皮膚科、耳鼻科・整形外科などへは、管理者か介護支援専門員が通院の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が利用者の心身譲りの移乗、変化を察知した際看護職に連携し、応急処置についての指示と爾後の対応について指示を仰ぐというシステムを構築している。常に変化には注意を払い看護師への連絡を行うよう努めている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時については、看護師が主導して病院関係者と情報交換及び相談を実施している。また入院時は医療機関に出向きカンファレンスを行う等、普段から顔の見える関係性づくりを心がけている。	入院時は看護師がサマリーで情報提供している。常勤の看護師がおり、緊急時以外は入院が必要か、相談して指示を受けている。入院中は見舞いに行き、状態の把握に努めている。退院時はカンファレンスに参加している。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期のケースには、利用者、家族、医療関係者との間でさらには事業所の力量の範囲内で把握に努め、万事抜けのないように努めている。主治医、訪問看護とも連携をとる事で、終末期の看取りのケアについても実施できる体制をとっている。	昨年は1例の看取りを行った。契約時に「重度化した場合における対応にかかるケア対応指針」を利用者、家族に説明し同意を得ている。また緊急時の対応のため、延命処置に関する同意書があり、必要時に再確認を行っている。ターミナル研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備え、職員は応急処置など初期対応が出来るよう実践力をつけるべく努めている。又定期的ではないが、看護師にも指示を受けている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時の対処法はマニュアルで用意している。日頃から、災害に備えマニュアルを熟読し、利用者の避難が支障なく出来るよう年2回の避難訓練を実施し、消防署からの改善の指示などがあれば改善するように努めている。	年2回、夜間も想定して避難訓練を実施している。火災時は外の避難階段を降りて避難場所に移動することになっている。消防署立会いで消火訓練も行った。備蓄は3日分、水とレトルト食品、アルファ米などを備えている。ハザードマップを確認し、土砂崩れなどの災害に対するリスクの把握をする予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人としての尊厳は、プライバシーの確保も含め業務遂行の原点として考え動いている。又接遇研修などを通して、職員の意識を高め普段のケアを見直しより良いサービスの提供に努めている。	年1回接遇の研修を行っている。今どんな気持ちでいるのかを読み取り、悲しそうなら横に座って話を聞くなど、寄り添った支援をしている。プライバシーに配慮し、人前で大きな声での声かけはしないよう心掛けられた支援が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護業務を行う際、利用者各々の希望、意識荷余り気を配らず介護者のペースで行いがちであるが、絶えず介護業務の原点を考え、例えば衣類選び一つをとっても利用者の希望、意思に沿えるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者各々の生活ペースを大切に、日々の生活を組み立てるように努めている。職員主体のペースになってしまわないように、管理者を中心に、利用者本位のサービス提供が出来るように心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活に変化を持って頂く為に、おしゃれ、身だしなみは大切な人間のいとなみであり相応の配慮を心がけている。衣類に関しても気候や季節に合った物を利用者本に選んできていただけるように配慮している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は生活リズムの中で最も重要なイベントと言ってよいかも分かりませんが、楽しい食卓になるように利用者の方と一緒に職員が食事を摂るようにして会話を交えた楽しい食事を心がけています。	副食は業者の調理したものを利用している。炊飯とみそ汁は事業所で調理している。利用者は盛り付けや配下膳、洗い物などを手伝っている。2か月に1度はお好み焼きなどを食材カットから調理し、月2回は揚げパンなどおやつ作りを楽しんでいる。職員との和やかな食事風景がうかがえた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者各々の食事に於ける嗜好、習慣、形態などを考えた食事対応を図ると同時に、栄養摂取、水分確保にとりわけ傾注している。食事摂取量が減っている時は、その要因を探り看護師にも相談しながら改善に努めている。			

自己 者 第	三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、各利用者それぞれの能力に応じて洩れなく実施する事で、口腔内の清潔の保持が出来るように努めている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のそれぞれの生活リズム更には、排便、排尿の喫緊の状況に合わせ、極カトイレでの排尿便を目指し、対応している。又羞恥心には配慮し、場合によっては同性介助を行う等の配慮を行っている。	現在はおむつ使用の方はおられない。排泄チェックを行い、タイミング良い声かけで支援している。自宅ではポータブルを利用していた方も、できるだけトイレへの誘導を促し、今は夜間も含めてポータブル設置の方はいない。トイレは、各フロア2か所にそれぞれ車いす用と自立用が設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者各々の生活リズムに応じた食事、給水、排尿、排便を心がけ、便秘の予防を図っている。又トイレ使用時に腹圧を掛けるように促すことで自然排便が出来るように心掛けている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則として、利用者各々の希望をベースに、入浴日、時間帯を決め、入浴を実施している。又地下の大浴場を足湯として利用することで、入浴日以外でもリラックスして頂ける時間を提供している。	概ね週2回の入浴を支援している。希望により、夜間や週2回以上、同性介助で入浴をしている方もいる。シャワーが苦手な方には驚かせないように声かけに配慮して、ゆっくり入浴できるような支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者各々の状況に応じた睡眠、休息をとって頂く事で生活リズムを整えられるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は利用者及び介護人にとり、大変重要且つ管理の厳格性を持つべきである。厳重な管理意識の元業務遂行している。又往診時に主治医に薬に関する助言などを頂き、副作用や飲み合わせなどについての意識を高めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の利用者の生活に喜びや潤いを持って頂く為、各人の好み、役割り、活動の機会を設け、利用者の自立心、生活意欲などの涵養を図っていくように努めている。その方その方の背景を理解、各々生活が足りるものに近づくよう支援している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援業務は、日頃からできる限り実施している。利用者各々の希望に沿う場合も含め、事業所として利用者のストレス解消のため積極的に活用している。施設にいても四季を感じながら過ごせるように配慮している。	散歩を習慣にしておられる方は3名いる。介護計画にも挙げて、職員や家族の支援で、1時間以上の散歩を楽しんでいる。家族や知人と外出される方も多い。今年は、年1回の遠足に淡路島まで出かけた。行き先は利用者の希望も聞きながら決めている。3か月に1回程度、外食の機会が設けられている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の所持をして頂いていないが、中には個人で現金を所持して買い物をするこも、家族と相談の上ケースバイケースで実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話や手紙による個々の通信(コレポン)も、ケースバイケースで出来るようにしている。手紙の返信を希望される方には一緒に手紙ウを搔くようにしている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間が、利用者各人にとって家庭に砂がる間隔を持てる場所であったり、憩いの場として寛げる場であるように配慮している。又利用者の方が作成した品々を廊下に展示する等して、来客の方やご家族にも見て頂けるように配慮している。	昨年の第三者評価後、目標達成計画に挙げてリビングのタイルカーペットを張り替えた。ごちんまりと家庭的な落ち着いた雰囲気がある。冬場は加湿器を設置し、湿度に気を配っている。においがこもらないよう換気に努め、アロマを利用するなどの工夫が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	集団生活の中でも、共有空間の中で一人に慣れるところ、2、3人で過ごせるコーナーなどを作り、集団からくるストレスの緩和が出来るように配慮して、思い思いの時間が過ごせるような居場所作りを心がけている。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の居室は、一人に慣れる安心して過ごせるスペースであるよう、利用者、家族ともども相談のうえ、整備するように努めている。又本人様の想いでの品々を持ってきていただき、自由に配置して頂いている。	居室の持ち込みに制限はない。洗面台が設置されている。ベッドの布団を持ち込み、それぞれ好みのカバーリングで、その人らしさがうかがえた。使い慣れた鏡台やどっしりとしたテーブル、家族の写真や職員と作った壁飾りなど、落ち着いて過ごせるような工夫がおこなわれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者各々の活動力、特性に見合った施設内の環境整備を施し、居室及び共有部双方でのあらゆるリスクの極小化を図るよう努めることで円滑に生活が行えるように配慮している。		